

## 2025 年度一般社団法人日本生理学会第 2 回理事会議事録

日 時： 2025 年 11 月 21 日（金） 13:00-17:00

場 所： ハイブリッド開催（ZOOM）

ホスト会場：一財）国際医学情報センター 2 階第 2 会議室

【出席者】

理事長 久保義弘（議長）

理 事 平野勝也

（WEB）赤羽悟美、荒田晶子、石井久淑、磯村宜和、今井猛、浦川将、永福智志、大場雄介、尾仲達史、小野富三人、鯉淵典之、佐藤元彦、志水泰武、高橋倫子、竹内裕子、樽野陽幸、富永真琴、中條浩一、中村丈洋、西谷(中村)友重、西田基宏、花田礼子、林由起子、日比野浩、檜山武史、藤原祐一郎、宮田麻理子、柚崎通介、横山詩子、和氣秀文（計 32 名）

監 事

（WEB）安西尚彦、河合佳子、久場博司（計 3 名）

陪席者

（WEB）神作憲司、藤原悠紀、堀田晴美、丸中良典（計 4 名）

【欠席者】

理 事 内田さえ、岡村康司、尾野恭一、小野堅太郎、須田悠紀、富澤一仁、中村和弘、成瀬恵治、飛田秀樹、和氣弘明、渡辺賢（計 11 名）

理事定数 43 名に対し過半数の 32 名の理事および 3 名の監事が出席し、定款により、本理事会は適法に成立した。

### I. 報告及び協議事項

#### 1. 理事長挨拶

定刻となり開催する旨が宣言された。定款に従い、議事録署名人は理事長および出席した 3 名の監事、安西尚彦、河合佳子、久場博司とする。また WEB 会議での議決権や意見は、ZOOM の「挙手」機能または発言にて表明するよう案内した。

#### 2. 庶務報告（平野副理事長）

平野副理事長より、資料に基づき庶務報告がなされた。

#### 3. 財務報告（西谷（中村）副理事長）

西谷財務担当副理事長より、資料に基づき以下 2 点について報告がなされた。

- 1) 2025 年度予算執行状況：9 月末時点の収入は 2,722 万円（予算 3,052 万円）である。①「認定エデュケーター制度収入」は、9 月末時点では出願料のみであり、12 月末までには認定登録料や更新料を含め 125 万円の追加収入が見込まれる。②JPS 論文投稿料払戻収入として 460 万円を計上した。これは 2024 年度の出版費用として前払いした未使用分が出版社変更に伴い返却されたものである。9 月末時点の支出は 1,660 万円（予算 3,226 万円）である。①「JPS 論文投稿料」は、12 月末までに学会負担分を一括支払い予定である。②「IUPS 関連支援費」は、日本人 Special Lecture 支援として 1 人分を支払い済み。12 月末までに残り 2 人分と日本人オーガナイザーシンポジウム支援を支払い予定である。③「委員会・理事会活動費」の実績

は 170 万円であり、オンライン会議の増加による旅費などの削減が要因と考えられる。④

「100 周年記念事業費」として、100 周年記念誌作成費として 152 万円を支出した。⑤「活動計画に基づいた新規事業経費」は、Beacon Symposium 旅費、大会前日シンポジウム（SIG 会場費）、オンラインセミナーZoom 費用などいずれも 12 月末までに支出予定である。

- 2) 2026 年度予算案：2025 年度との主な変更点について①「JPS ロイヤリティ収入」として 230 万円を計上した。これは出版社が受け取る全収益の 30%が生理学会に入る仕組みである。②「IUPS 2029 Congress 積立金」として 300 万円を計上した。これは、IUPS 2029 の日本開催に向けた支援計画（総額 1,200 万円を 4 年間で積立）に基づくものである。また、「IUPS 2029 Congress 準備金繰出金」として 200 万円計上した。これは積立金の一部を IUPS 2029 Congress 口座へ送金するものである。③「若手の会補助費」は、活動強化のため従来の 30 万円から 60 万円へ増額した。④「業務委託費」は、諸経費の増加より 10%増額され 855 万円を計上した。⑤「WEB 製作費」は、ホームページのリニューアル費用として 250 万円を計上した。当期経常増減額はマイナス 644 万円の想定である。

#### 4. その他（久保理事長）

##### ①地方会における奨励賞等の受賞制限の申合せ

地方会における奨励賞等については、受賞は一回限りとすることを申し合わせる。これは、他の地区での重複受賞の事例を踏まえたものである。

##### ②理事長の地方会参加について

実際に地方会に参加して、学会に対する求心力、活性化において地方会は非常に重要であることを再認識した。また、地方会参加の旅費は学会負担とすることが承認されているが、2024 年度に引き続き 2025 年度も研究費から支出した。2026 年度は定年退職となるため学会からの旅費支給を依頼する予定である。

##### ③PSJ Beacon Symposium について

新しい活動の形として今年度開始したもので、第 1 回を「外界に適応するためのアロスタシス制御の神経メカニズム」をテーマに、12 月 5 日、6 日に東京科学大学で開催予定である。オーガナイザーは、磯村宜和理事（東京科学大）と佐々木拓哉氏（東北大）が務める。

##### ④PSJ オンラインセミナーについて

2 か月に 1 回程度のオンラインセミナー開催とし、第 1 回を 9 月、第 2 回を 11 月 27 日に開催する。第 3 回目以降の候補者について推薦を求めている。

## II. 審議事項

### 1. 2025 年度予算執行状況（西谷（中村）副理事長）

西谷（中村）財務担当副理事長より 2025 年度予算執行状況について説明がなされたのち、本理事会に諮ったところ異議なく承認された。

### 2. 国際医学情報センター事務局業務受託費の改定について（久保理事長）

久保理事長より、事務局業務を委託している国際医学情報センターより諸経費の増加に伴う増額（約 10%）の申し入れがあったことについて説明がなされたのち、本理事会に諮ったところ異議なく承認された。

### 3. 2026 年度予算案（西谷（中村）副理事長）

西谷（中村）財務担当副理事長より 2026 年度予算案の説明がなされたのち、本理事会に諮ったところ異議なく承認された。定款に基づき、2026 年度定時社員総会に諮る。

#### **4. 年会費の改定について（久保理事長）**

久保理事長より、業務委託費の値上がりを受けて、2027 年度年会費より評議員・一般会員は千円増額、学生会員は据え置きとする改定案の説明がなされたのち、本理事会に諮ったところ異議なく承認された。定款に基づき、2026 年度定時社員総会に諮る。

#### **5. 生理学エドゥケーター・卓越生理学エドゥケーターの承認（鯉淵生理学エドゥケーター認定制度委員長）**

鯉淵生理学エドゥケーター認定制度委員長より、委員会で承認とした生理学エドゥケーター新規 18 名、更新 102 名、卓越生理学エドゥケーター 5 名を本理事会に諮ったところ、異議なく承認された。

#### **6. 日本生理学奨励賞の承認（永福賞選考委員会委員長）**

永福賞選考委員長より、委員会内での選考により選出した 2 名について本理事会に諮ったところ、異議なく承認された。

#### **7. 入澤宏・彩記念若手研究者賞（入澤記念若手賞）規定および選考細則の改定（平野副理事長）**

平野副理事長より、入澤宏・彩記念若手研究者賞（入澤記念若手賞）規定および選考細則について本理事会に諮ったところ、異議なく承認された。

#### **8. 女性生理学研究者推進委員会に関する内規の改定について（荒田女性生理学研究者推進委員会委員長）**

荒田女性生理学者活動推進委員会委員長より、女性生理学者活動推進委員会に関する内規の改定について本理事会に諮ったところ、異議なく承認された。これにより、委員会名は「入澤彩賞運営委員会」に改称された。

#### **9. 入澤彩記念女性生理学者奨励賞（入澤彩賞）選考委員会規程の改定について（荒田女性生理学研究者推進委員会委員長）**

荒田女性生理学者活動推進委員会委員長より、委員会名改称に伴う入澤彩記念女性生理学者奨励賞（入澤彩賞）選考委員会規程の改定について本理事会に諮ったところ、異議なく承認された。

#### **10. JPS 編集委員会委員長、賞選考委員会委員長の選任（久保理事長）**

久保理事長より、JPS 編集委員会委員長が 3 月に現副編集委員長の佐藤元彦理事に交代することを本理事会に諮ったところ、異議なく承認された。また、賞選考委員会は賞選考委員会規程に則り 2025 年 7 月より新体制となり、委員の互選で選出された永福智志理事を委員長とすることを本理事会に諮ったところ、異議なく承認された。

#### **11. 旅費規程の改定について（西谷（中村）副理事長）**

西谷（中村）財務担当副理事長より、物価上昇を踏まえ旅費規程の改定について本理事会に諮ったところ、異議なく承認された。

#### **12. 地方会受賞者への大会参加サポートについて（久保理事長）**

久保理事長より、2025 年度に地方会で受賞した若手研究者が第 103 回東京大会に筆頭著者として演題登録し参加する場合、大会参加支援費として 1 万円を支給することについて本理事会に諮ったところ、異議なく承認された。なお、演題登録は Late-breaking Abstracts (LBA) でも認める

こととする。

### **13. 義援金配分について（事務局）**

事務局より、2025 年度（第 102 回合同大会）は申請者 0 名であったことが報告された。2026 年度（第 103 回東京大会）も、激甚災害に見舞われた正会員を対象として大会参加登録費の全額補助を継続することについて本理事会に諮ったところ、異議なく承認された。

以上